

CROI 2017 Seattle 参加報告書

聖路加国際病院感染症科

森 信好

この度、CROI2017 Seattle (2月13日から16日)に参加、非常に興味深い研究内容が目白押しでしたが、個人的に特に印象に残った発表を以下に報告します。

・ **Significant Efficacy and Long-term Safety Difference With TAF-Based STR in Naïve Adults (Arribas J, et al. CROI, abstract 453)**

TAF 製剤は日本でも発売されており、多く使われるようになっていきます。すでに 48 週および 96 週の比較は報告されていますが、今回は 144 週における結果です。

TAF vs TDF の効果について：

HIV-RNA < 50 copies/mL では 84% vs 80% (95% CI 0.6%, 7.8%; p=0.02)

HIV-RNA < 20 copies/mL では 81% vs 76% (95% CI 1.5%, 9.2%; p=0.01)

なお、両者とも 1.4% とほとんど耐性の獲得は見られていません。

TAF vs TDF の安全性について：

腎の有害事象は 0 vs 12 例 (p<0.001)

BMD 減少による薬剤中止は 0 vs 6 例 (p<0.001)

結論：144 週において、TAF は TDF よりも有効かつ安全であることが示されました。

・ **Randomized Trial of Bictegravir or Dolutegravir with FTC/TAF for Initial HIV Therapy (Sax PE, et al. CROI, abstract 41)**

新しい世代の bictegravir について。Bictegravir は dolutegravir よりも薬物相互作用が少ないと目されており期待が持たれています。今回は dolutegravir との phase II の RCT になります。

48 週での virologic suppression は 97% vs 91% と有意差なし。また両者とも耐性出現は見られていません。有害事象は両者ともに消化器症状(下痢や嘔気)が最も多いものの、safe かつ well-tolerated でした。今後は phase III の RCT が行われるとのこと。

・ **Long-term Safety and Efficacy of CAB and RPV as 2-Drug Oral Maintenance Therapy (Margolis DA, et al. CROI, abstract 442)**

長時間作用型である cabotegravir と rilpivirine による dual therapy (LATTE study) の

144 週における続報です。

Virologic suppression が得られており、試験を離脱するような有害事象もほとんど見られていません。今後の長時間作用型による治療（特に intramuscular）に大きな期待を抱かせる結果となっています。

・ **Earlier vs Delayed ART Initiation and Risk of Cancer (Silverberg MJ, et al. CROI, abstract 598)**

NEJM 2015 の START trial により CD4 にかかわらず早期に ART を開始することが推奨されています。今回の study は 1996 年から 2009 年までの NA-ACCORD のデータを用いた解析です。早期の ART 導入により、長期的ながんの発症リスクを低下 (HR 0.53, [95% CI 0.36, 0.79; p 0.002]) させることが示されました。

他にも、

・ IPERGAY のスピノフで doxycycline を PEP として用いることで性感染症のリスクを低下させる、

・ 妊婦における PrEP としての TDF/FTC の長期的な安全性が示される、
など多くの興味深い研究発表がありました。

今回の CROI 参加により、HIV の日常診療や今後の臨床研究に活かすことのできる情報を多く得ることができました。